

2015年度 上期決算説明会

2015年 11月10日

 不二製油グループ本社株式会社

目次

1. 上期決算概要
2. 上期決算のポイント
(施策の進捗状況)
3. 設備投資状況
(今期投資内容、過去の投資内容進捗)
4. 通期見通し
5. その他中計進捗状況について (KPI進捗)
6. 当社取り組みについて

1. 上期決算概要

1. (1) 上期決算概要

◆ 対前年同期、売上高は増収、営業利益はほぼ横ばい

(億円)

連結		14年度 Q 2 累計	15年度 Q 2 累計	対前期	
				増減額	増減率
売上高	油脂	496	520	+24	+4.9%
	製菓・製パン素材	591	617	+26	+4.4%
	大豆たん白	195	204	+9	+4.9%
	合計	1,281	1,341	+60	+4.7%
営業利益	油脂	27	23	▲4	▲15.3%
	製菓・製パン素材	35	36	+1	+2.5%
	大豆たん白	3	6	+3	+123.3%
	合計	64	64	+0	+0.2%
営業利益率		5.0%	4.8%	▲0.2p	－
経常利益		64	59	▲5	▲7.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益		47	36	▲11	▲22.7%
四半期包括利益		48	25	▲23	▲48.1%

1. (2) 上期決算概要：地域・セグメント別損益

(億円)

連結		15年度Q2累計		対前年同期	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益
日本	油脂	183	9	+1	▲1
	製菓・製パン素材	497	30	+22	+4
	大豆たん白	184	4	+8	+3
	計	864	43	+31	+6
アジア	油脂	120	5	▲4	▲0
	製菓・製パン素材	120	14	+4	+6
	大豆たん白	20	2	+1	+2
	計	261	21	+2	+7
米州	油脂	124	4	+24	+1
	製菓・製パン素材	—	▲5	—	▲5
	計	124	▲2	+24	▲5
欧州	油脂 計	92	5	+3	▲2
連結調整		—	▲4	—	▲6
合計		1,341	64	+60	+0

1. (3) 上期決算概要：地域別損益の概況

◆ 営業利益は前年同期並も、日本・アジアの業績は好調に推移

● 日本

製菓・製パン素材のチョコレート、大豆たん白では大豆多糖類の販売が好調で増益

● アジア

製菓・製パン素材の調製品利益回復や製菓4品の販売堅調

大豆たん白は生産性向上で増益

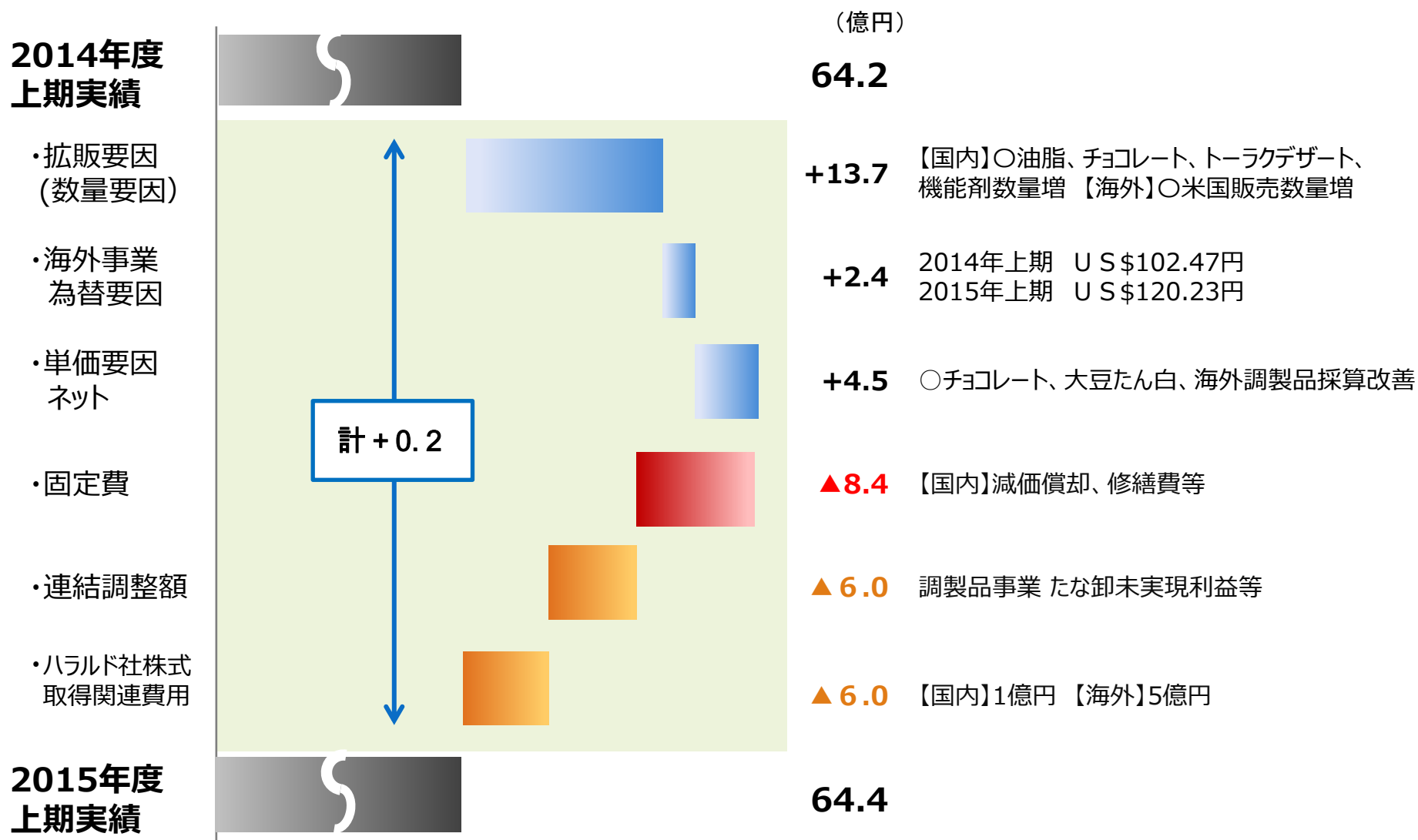
● 米州

油脂は増益、製菓・製パン素材はブラジル子会社であるハラルドの取得費用計上があった

● 欧州

油脂は他社参入による競合激化により減益も、想定ラインは上回る

1. (4) 上期決算概要：営業利益分析



2. 上期決算のポイント

2. (参考) 上期決算のポイント：＜中計＞エリア・事業成長戦略

◆ 中期経営計画戦略に基づき事業を推進

2015年5月説明会発表のものを再掲

「ルネサンス不二2017」エリア戦略

日本	アジア・中国	米州	欧州
安定的・継続的に利益を創出	海外展開の中心エリア チョコレート用油脂・製菓4品の拡販	ハラルド社業務用チョコレート、およびチョコレート用油脂事業の拡大、乳化・発酵事業の創出	原料調達強化によるチョコレート用油脂拡販 健康油脂による市場拡大

「ルネサンス不二2017」成長戦略

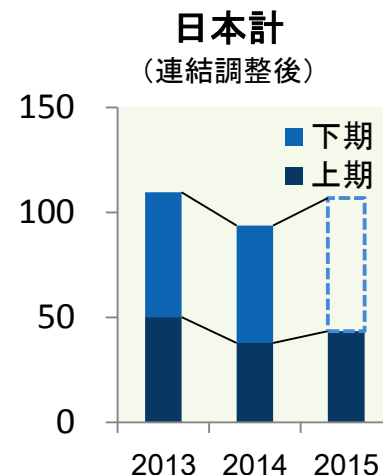
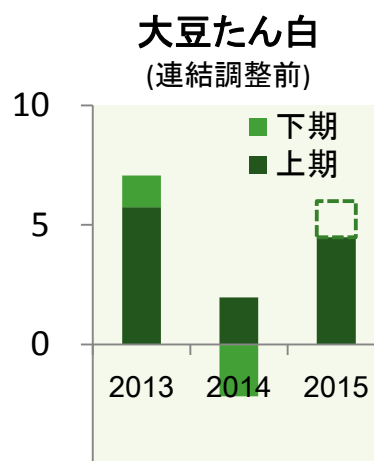
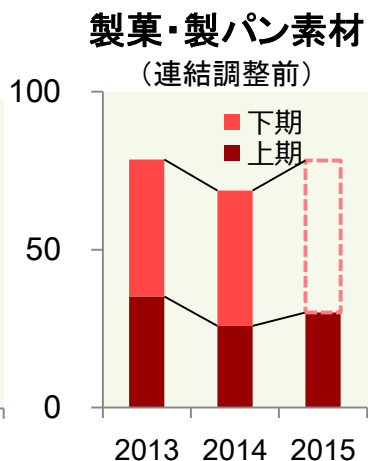
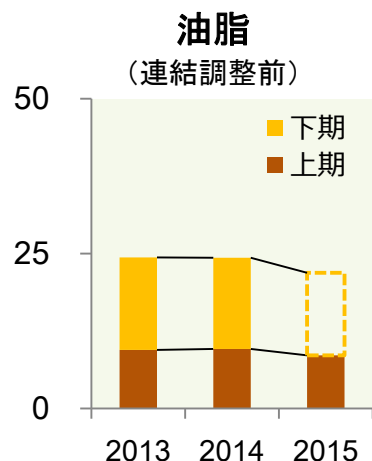
目標		油脂	チョコレート	乳化発酵	大豆たん白
重点	グローバルシェアTOP3の確立	CBE	コンパウンドチョコレート	—	大豆多糖類
拡大	地域優位性の向上	DTR技術*製品 健康栄養油 (育児粉乳用途等)	—	クリーム マーガリン フィリング	大豆ミート
改革	構造改革による収益性の強化	CBS CBR	—	クリーム (国内)	分離大豆たん白 豆乳 大豆たん白食品
育成	次世代中核事業への育成	多価不飽和脂肪酸 (ω 3油脂等)	—	チーズ 乳発酵	大豆ペプチド USS

2. (1)-1 上期決算のポイント【日本】：概要

◆ 日本事業は、概ね好調に推移

- ・製菓・製パン素材、大豆たん白は重点製品の数量増により増益
- ・油脂は販売数量が堅調に推移するも、経費増により減益

【日本】 営業利益推移（単位：億円）



2. (1)-2 上期決算のポイント【日本】：成長戦略

◆ チョコレート・CBE・機能剤の重点拡販施策は順調に推移

		エリア成長戦略	決算増減要因	
		「安定的・継続的に利益を創出」	○	×
油脂		【重点】 CBEシェアアップ	・チョコレート用油脂販売好調 ・パーム油拡販堅調	・修繕等の費用増加
製菓・ 製パン 素材	チョコ レート	【重点】 コンパウンドチョコレートシェアアップ	・チョコレート販売好調維持 ・チョコレート値上げ実施	
	乳化 発酵	【改革】 クリーム収益性強化	・クリーム飲料用途順調に拡大 ・トールクデザート販売好調 ・クリーム・マーガリン値上げ実施	・洋生菓子向け クリーム販売数量減
大豆 たん白		【改革】 大豆たん白素材・大豆たん白食品の 構造改革を推進	・機能剤国内市場、輸出向け ともに飲料用途好調 ・たん白素材・機能剤値上げ実施	

2. (1)-3 上期決算のポイント【日本】：チョコレート・CBE

① チョコレート・CBEが好調な販売を持続

【市場環境】

- 流通菓子好調
- インバウンド需要の取り込み
- カカオの効能・良いイメージが定着、需要が継続

【実績】

- 販売数量2桁増、好調を維持

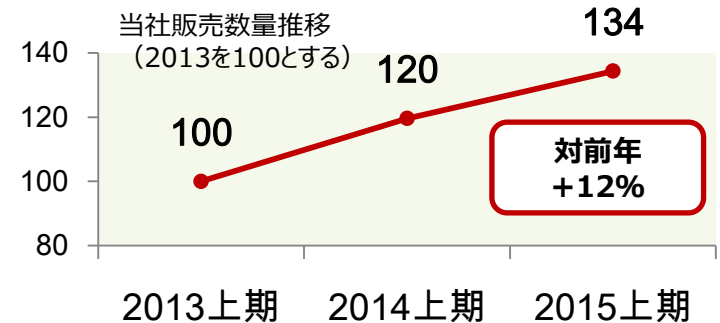
＜数量＞・チョコレート用油脂	対前年同期	112%
・チョコレート	対前年同期	115%



下期も好調を持続する見込み

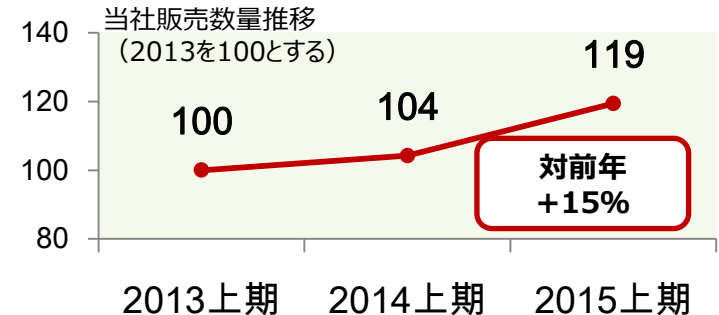
チョコレート用油脂

販売政策の転換によるシェアアップを実現



チョコレート

流通菓子・土産菓子等の好調取り込む

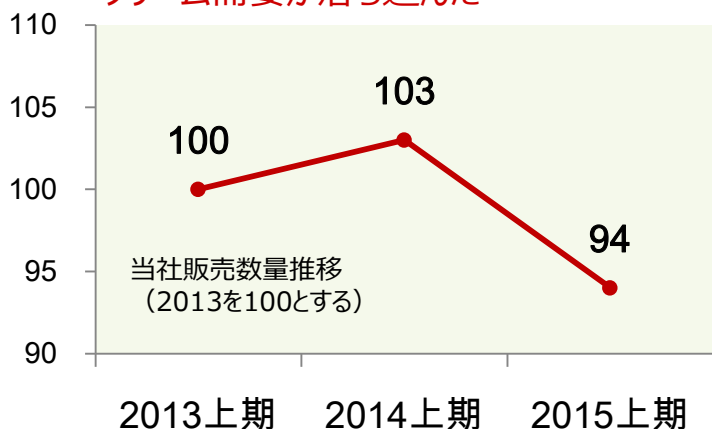


2. (1)-4 上期決算のポイント【日本】：乳化発酵事業

② 乳化発酵事業ではクリームは数量減が課題

クリーム

外食向け等堅調も、洋生菓子向け
クリーム需要が落ち込んだ



【市場環境】

- 洋生菓子消費の冷え込み（新しいブームがない）
- 洋菓子のバラエティ拡大
- チャンネルの変化
- CVS・小売り店舗における日配品の店頭フェイスの縮小

【当社販売状況】

- 洋菓子のバラエティ拡大によるクリーム使用比率の低下
- 同業他社との競争激化



足元では、クリームの外食・調理用用途など順調に拡大。マーガリン・フィリング類、
およびトーストデザート類も好調に推移し、通期では事業全体で前年を上回る見込み

2. (1)-5 上期決算のポイント【日本】：大豆たん白 機能剤

③ 水溶性大豆多糖類の市場拡大が寄与

【市場環境】

- ・中国を中心に酸性乳飲料の需要増
- ・他のアジア諸国でも増加傾向

【当社販売状況】

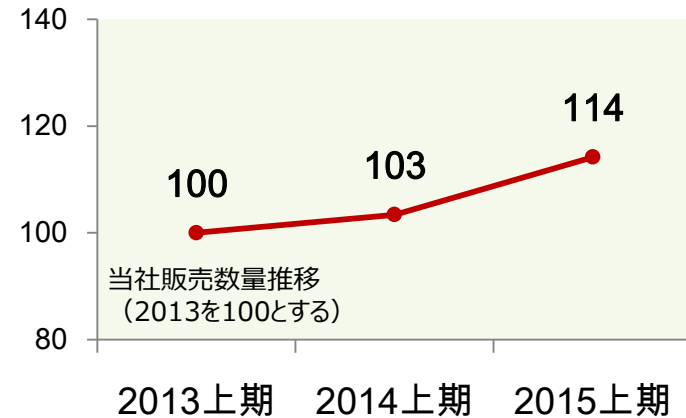
- ・健康志向を受け、低糖タイプが堅調に推移し当社水溶性大豆多糖類の需要増
- ・ハラル認証取得が輸出増の追い風に



足元でも順調に採用増加、下期も好調に推移する見込み

水溶性大豆多糖類

国内外での酸性乳飲料の用途好調



2. (1)-6 上期決算のポイント【日本】：構造改革進捗

④ 大豆たん白事業は構造改革を進めている

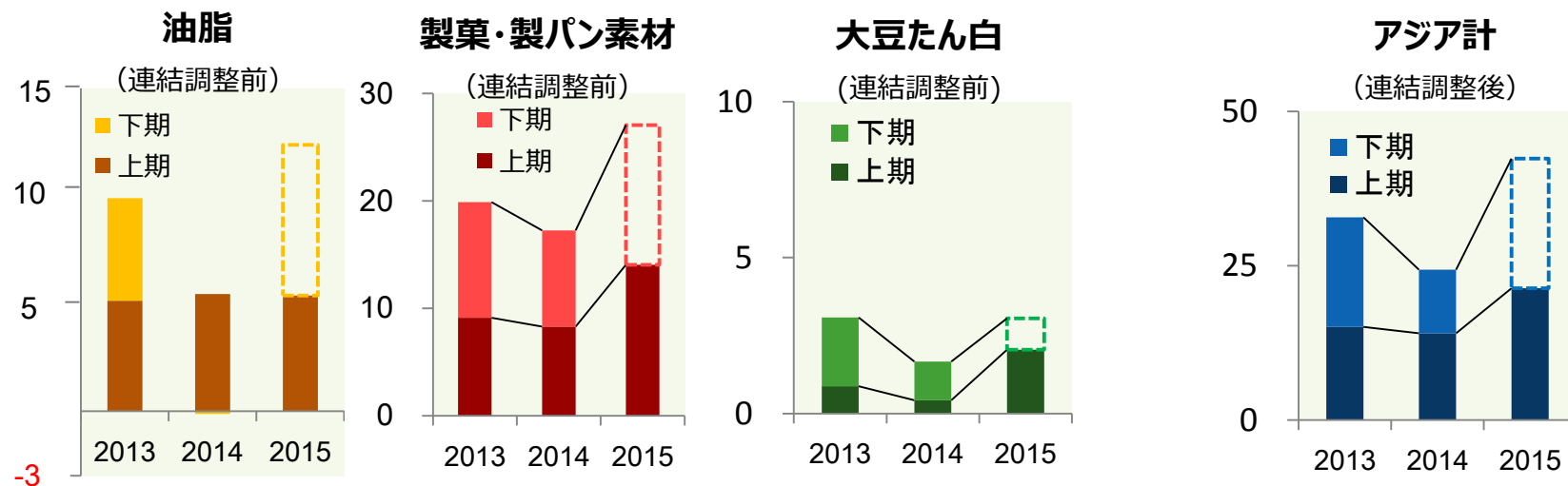
	課題	施策	進捗状況
大豆たん白 素材 (分離大豆たん白)	採算向上 競争力回復	生産拠点の再編 アライアンス戦略の探索加速	△ 生産拠点の再編は進行中 アライアンス戦略は遅れているが 今期中に目処をつける見込み
大豆加工 食品	採算向上 競争力向上	生産拠点および生産ラインの再編 アライアンス戦略の探索加速	△ ラインの再編は一部完了 アライアンスは協議中
大豆 ルネサンス	USS製品の拡販 と早期収益化	大豆製品の浸透度アップ USS製品の採用頻度の着実な増加	△ アライアンスによる拡大協議中 浸透策は引き続き進行中
その他	不採算事業の 整理	不採算事業の整理	○ ポッカサッポロ社へ豆乳小売事業 営業権譲渡

2. (2)-1 上期決算のポイント【アジア】：概要

- ◆ アジア事業は、製菓製パン素材で大きく増益
大豆たん白の生産性向上による増益もあり、全体の増益幅が拡大

【アジア】 営業利益推移

(単位：億円)



2. (2)-2 上期決算のポイント【アジア】：成長戦略

- ◆ 製菓・製パン素材は拡販堅調、
CBEの数量はユーザー引き取りのずれにより減少

	エリア成長戦略	決算増減要因	
アジア	チョコレート用油脂・製菓4品の拡販	○	×
油脂	【重点】 CBEシェアアップ	・原料高値在庫減で利益率回復	・CBE数量減 (ユーザー引き取りずれ)
製菓・ 製パン 素材	【重点・拡大】 製菓4品拡販堅調	・乳製品相場が安定し調製品 利益率回復 ・クリーム、マーガリン販売堅調	
大豆 たん白	【改革】 収益構造改革はアライアンスに遅れ	・生産性向上による利益増	・アライアンスの検討継続



下期はCBEのユーザー引き取りずれは解消し、通期では前年並の数量を確保する見通し

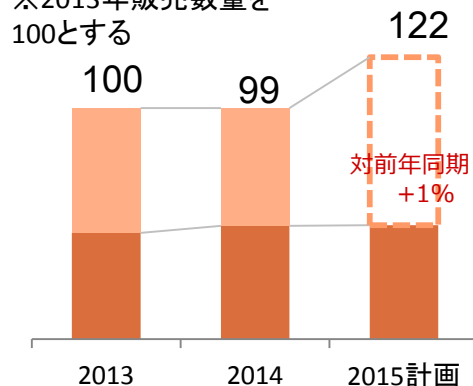
2. (2)-3 上期決算のポイント【海外】：アジア製菓4品

◆ アジア製菓4品は堅調に推移

チョコレート

《2015年上期進捗》

※2013年販売数量を
100とする

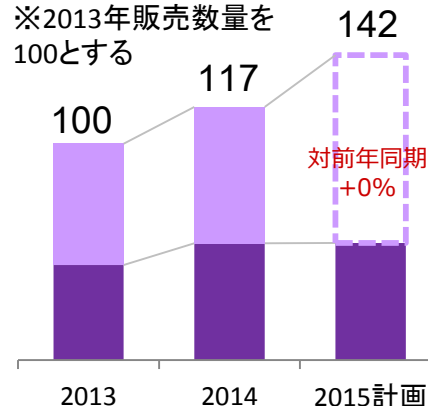


△
中国の鈍化は底打ちか
インドネシアはアジアの
需要取り込み拡大

マーガリン・ショートニング

《2015年上期進捗》

※2013年販売数量を
100とする

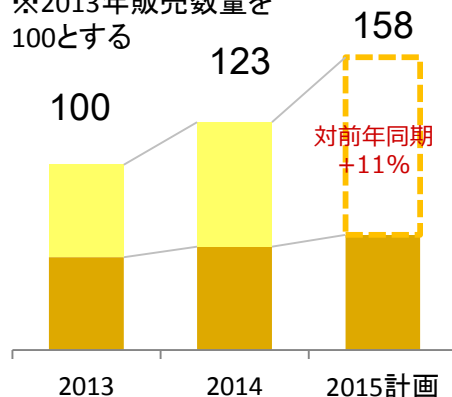


△
高利益率のマーガリンを
優先した販売を実施
(マーガリンは2桁増)

クリーム

《2015年上期進捗》

※2013年販売数量を
100とする

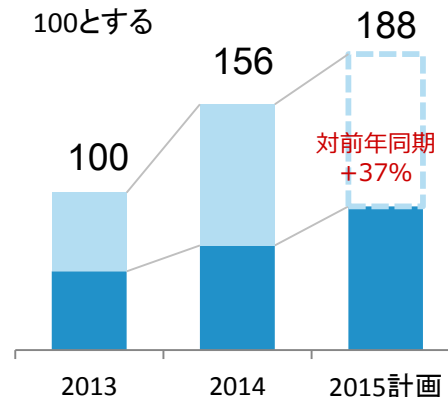


○
アジアの需要取り込み
シンガポールで好調

フィリング

《2015年上期進捗》

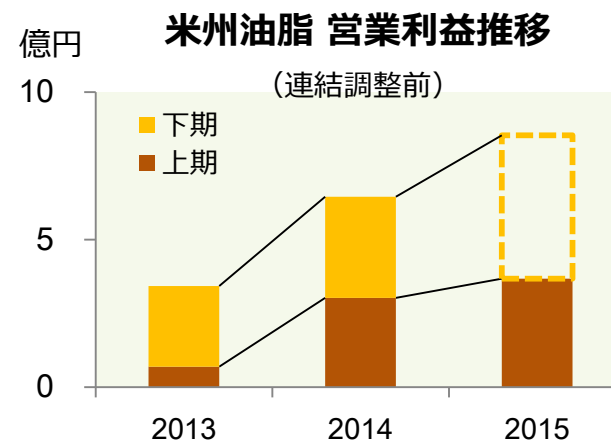
※2013年販売数量を
100とする



◎
食の洋風化の需要
取り込み中国で好調

2. (3)-1 上期決算のポイント【米州】：概要

- ◆ 米州事業は、油脂が販売数量増により増益
製菓・製パン素材ではハラルド取得費用を計上



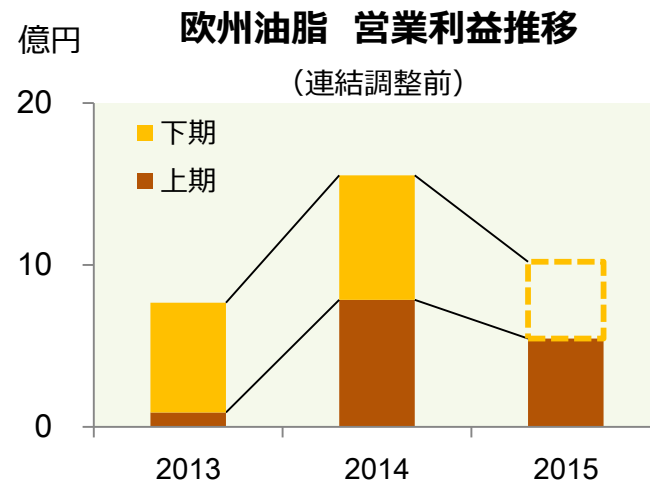
	エリア成長戦略	決算増減要因	
米州	チョコレート用油脂、業務用チョコレートの拡大 油脂生産能力増によるコスト競争力強化	○	×
油脂	・【重点】CBEシェアアップ ・油脂生産能力増	・パーム油拡販による数量増	・CBE数量減
製菓・ 製パン 素材	【重点】コンパウンドチョコレート拡販 (南米市場拡大)	※予定より前倒しで取得費用計上 2015年度3Q決算より損益取込	



下期もCBEの数量減少は続くが、パーム油拡販は好調に推移し、増益の見通し

2. (4)-1 上期決算のポイント【欧州】：概要・成長戦略

- ◆ 欧州事業は、競争激化により減益
CBEの数量は増加



	エリア成長戦略	決算増減要因	
欧州	チョコレート用油脂拡販・健康油脂市場拡大	○	×
油脂	・【重点】CBEシェアアップ ・健康油脂拡販	・CBE数量増加	・健康油脂は他社参入による競争激化



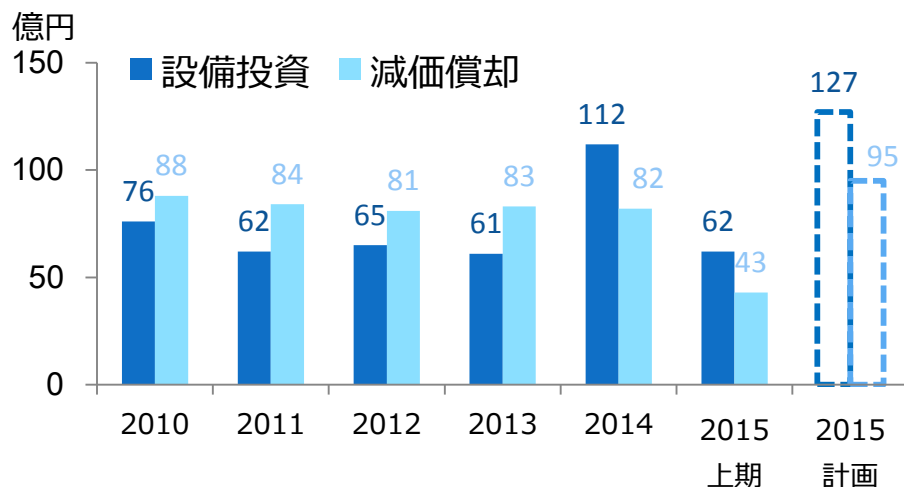
CBEは、下期も堅調に推移する見込み

健康油脂は、下期も厳しい環境が続くが、数量を確保し、減益幅の縮小につとめる

3. 設備投資の進捗

3. (1) 設備投資の進捗：概要

◆ 設備投資は計画どおり進捗



【 上期実績 】

設備投資金額
62億円

減価償却費
43億円

(億円)

主な投資実績	上期実績	通期計画
不二サイエンスイノベーションセンター	11	36
アジアR&Dセンター	3	4
日本 チョコレート設備増強	5	14
米国 油脂精製能力増	3	4
欧州 貯蔵設備キャパシティ増	3	4

3. (2) 設備投資の進捗：投資案件進捗

◆ 投資案件進捗

関東チョコレート工場 2015年11月生産開始



タイチョコレート工場 2015年内建設完成予定



インドクリーム工場 2015年内生産開始予定



アジアR&Dセンター 2015年3月開所



4. 通期見通し

4. (1) 通期見通し：M & A 案件見通し

◆ ハラルド社見通し

【通期見通し】

● 販売状況

ブラジル国内の景況悪化によりチョコレート需要減少も、
販売数量は前年から増加の見通し

● コストアップ

急激なレアル安による原材料のコストアップが大きい



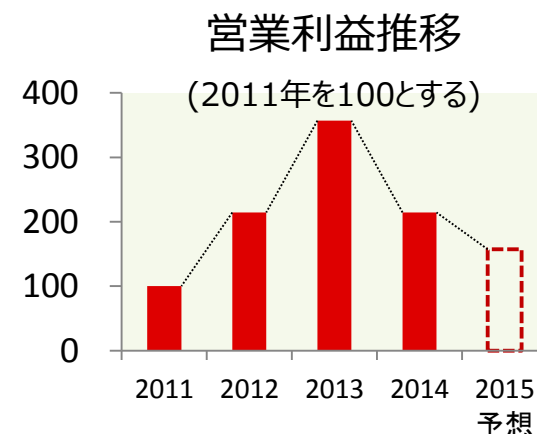
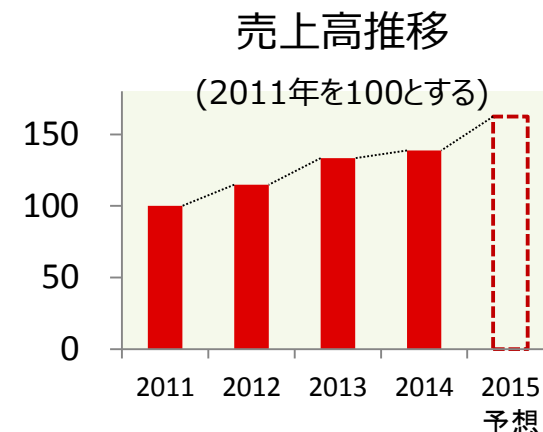
前期から減益も、のれん償却前の営業利益は黒字を確保

【来期以降の見通し】

- ・ ビジネスモデルは買収時の想定どおり
- ・ 価格改定、コストダウン、グループシナジーの発揮
等により環境の変化に対応していく



来期以降は増益を果たし、不二グループの利益に貢献する



4. (2) 通期見通し：通期業績予想の修正

◆ 経常利益、当期純利益を修正

(新興国等の通貨安による外貨建て債務の為替評価損を織り込み)

(億円)

連結		2014年度	2015年度				
			上期 (実績)	下期 (予想)	年間予想	5/8 期初予想	期初予想 との差
売上高	油脂	1,048	520	604	1,124	1,140	▲16
	製菓・製パン素材	1,276	617	844	1,461	1,444	+17
	大豆たん白	394	204	212	416	416	0
	計	2,719	1,341	1,659	3,000	3,000	0
営業利益	油脂	53	23	31	53	53	0
	製菓・製パン素材	87	36	63	98	97	+1
	大豆たん白	2	6	3	9	10	▲1
	計	142	64	96	160	160	0
	営業利益率	5.2%	4.6%	5.8%	5.3%	5.3%	-
経常利益		134	59	85	144	156	▲12
親会社株主に帰属する 当期純利益		93	36	59	95	100	▲5

4. (3) 通期見通し：地域・セグメント別営業利益

◆ 最近の業績動向を踏まえ、地域・セグメント間の組み替えを実施

(億円)

連結		2014年度	2015年度				
		営業利益	上期 (実績)	下期 (予想)	年間 予想	5/8 期初予想	期初予想 との差
日本	油脂	24	9	13	22	21	+1
	製菓・製パン素材	69	30	48	78	73	+5
	大豆たん白	0	4	2	6	6	0
	計	94	43	64	107	101	+6
アジア	油脂	5	5	7	13	11	+2
	製菓・製パン素材	17	14	13	27	22	+5
	大豆たん白	2	2	1	3	4	▲1
	計	24	21	21	42	37	+5
米州	油脂	6	4	5	9	10	▲1
	製菓・製パン素材	-	▲5	0	▲5	3	▲8
	計	6	▲1	5	4	13	▲9
欧州	油脂	16	5	5	10	10	0
	計	16	5	5	10	10	0
連結調整		2	▲4	2	▲2	▲1	▲1
合計		142	64	96	160	160	0

5. 中計KPI進捗

5. 中計KPI進捗

中計戦略			指 標	2014年実績	2015年2Q進捗 (対2013年上期)	2017年目標
基本戦略	成長戦略 事業 /エリア戦略	油脂 セグメント	海外CBE拡販（数量）＊ ＊2013年度実績を100とする	110%	101%	155%以上
		チョコレートセグメント	拡販（数量）＊ ＊2013年度実績を100とする	108%	117%	265%
		アジアエリア （中国含まず）	製菓三品拡販（数量）＊ ＊2013年度実績を100とする	111%	115%	180%以上
		米州エリア （ブラジル）	CBE/CBS拡販（数量）＊ ＊2013年度実績を100とする	112%	117%	140%以上
			チョコレート拡販 [§] [§] 2013年度の日本市場 実績を基準とする	－		13年度日本市場の 1.5倍以上
	収益構造 改革	事業構造改革	損益改善額	2015年以降実現	豆乳小売事業の 営業権売却	大豆たん白事業の構 造改革完了
		プロセス構造改革	コスト削減額	11.6億円		毎年10億円以上
		経営基盤 強化	グローバル経営	グループ本社制移行	－	10月に移行完了
	ダイバー シティの推進		女性管理職人数 2013年実績 7名	10名 (4/1時点)		13名以上
財務戦略		戦略的CF配分	3ヵ年設備投資400億円 ・戦略投資：300億円 ・一般投資：100億円	設備投資 112億円	上期設備投資 62億円	戦略投資 300億円 （3ヵ年）
資本戦略		株主価値最大化	連結ROE	6.8 %		8 %以上
		株主還元策	配当性向	27.6 %		30 %

6. 当社の取組みについて

6. (1) 当社の取組みについて：今期トピックス

月	トピックス
3月	アジアR&Dセンター開設
5月	フジオイルフィリピン設立
5月	ミラノ万博開催
6月	ハラルド社M&A クロージング
7月	フジオイルシンガポール、シンガポール農食品・家畜庁（AVA） 食品安全優秀賞受賞のプラチナ賞受賞
9月	マレーシアに食品工場の建設用地取得
10月	トーラク豆乳小売り事業 ポッカサッポロ社へ営業権譲渡
10月	グループ本社制移行
10月	おいしい健康 共創フォーラム開催
10月	「第6回ものづくり日本大賞」(経産省主管) 「経済産業大臣賞(製品技術開発部門)」受賞

5月
ミラノ万博



10月
おいしい健康 共創フォーラム

